

香川県教育委員会事務局  
保健体育課長 殿

学 校 名 香川県立坂出高等学校

学校長名 黒 島 俊 哉

## 令和 2 年度 オリンピック・パラリンピック教育実施報告書

### I 事業実施前の課題

これまで高等学校においても障がい者スポーツはあまりよく知られてこなかった。東京五輪・パラ五輪が開かれる好機に、障がい者がどのようにスポーツに取り組んでいるのかを知り、パラリンピアン生き様や思いを、生の言葉を聴いて受け止めることで、生徒が障がい者への理解をより深める機会としたいと考えた。

### II 具体的な取組

#### 1 活動名 (事前学習) : 廣瀬選手について調べよう

- (1) 日 時 : 令和 3 年 1 月 15 日 (金) 12 : 55 ~ 13 : 20 (1 年生 HR 運営委員)  
令和 3 年 1 月 18 日 (月) 8 : 30 ~ 8 : 40 (1 年生全員)  
令和 3 年 1 月 18 日 (月) 16 : 30 ~ 17 : 30 (1 年生 HR 運営委員)

(2) 対象者 : 第 1 学年 250 名 (内、HR 運営委員は 28 名)

(3) 活動概要及び工夫点 (ホームルーム (HR 運営委員は昼休み・放課後) の時間で実施)

昨年 1 月 1 日に朝日新聞に掲載された講師のお二人を紹介する記事を配付して各クラスで読ませた。また本校生徒と廣瀬ご夫妻との意見交換などをできるだけ取り入れるため、ホームルーム運営委員 (HR 委員) にこれまでの廣瀬ご夫妻の活動に関する資料を読ませて、質問等を用意させ、講演時に双方向のやりとりが行えるようにした。

(4) 活動の様子



【HR 委員が廣瀬選手の活動について学習し、講演会に向けて準備をしているところ】

## 2 活動名（中心学習）：人権講演会「二人で乗り越えた障がいとパラリンピックの壁」

(1) 日 時：令和3年1月20日（水）14：30～16：00

(2) 対象者：第1学年250名

(3) 活動概要及び工夫点（1年生人権講演会の時間で実施）

ご夫婦でリオデジャネイロパラリンピック柔道選手である廣瀬 悠・順子ご夫妻を講師に迎えての人権講演会を、ホームルームの時間に標記のテーマで行った。計画ではお二人を本校にお招きして実施予定であったが、新型コロナウイルスの感染が拡大していることで来県できなくなり、お二人のご自宅と本校体育館をインターネットで結んでのオンライン講演会とした。講演ではお二人による柔道の実演も予定していたが、講師と相談して講演内容を組み替えたり、機材の用意などオンライン講演の態勢づくりなどを行ったりして対応した。

講演会では、パラリンピックの紹介映像を視聴した後、お二人が出場したりオ大会の様子や外国における障がい者を取りまく環境について、お話しいただいた。またお二人がこれまでどのように柔道に取り組んできたか、そしてご自身の障がいや障がいに向き合っていることなどさまざまなお話をしていただいた。オンラインによる単調な講演になることを防ぐため、生徒に質問を投げかけて答えさせるなど、さまざまな配慮をいただいた。後半は各クラスHR委員がカメラの前に立って質問を次々に投げかけ、それに答えてくださった。講演後には生徒は各クラスで感想文を書いた。

(4) 活動の様子



【講演の様子】



【双方向の対話の様子】

## 3 活動名（事後学習）：「障がい者の人権課題」について話し合おう

(1) 日 時：令和3年2月3日（水）15：20～16：10

(2) 対象者：第1学年250名

(3) 活動概要及び工夫点（人権・同和教育ホームルームで実施）

「障がい者の人権課題」をテーマに1年生人権・同和教育ホームルームを行った。この中で、自分たちの町を見わたしてどのような人権課題がみられるのか、を廣瀬さんがメッセージとして出された「バリアフリー」をキーワードに意見交換し合うワークショップを行った。

#### (4) 活動の様子



【人権・同和教育ホームルームで話し合いをしているところ】

### Ⅲ 成果と課題

講演会では、パラアスリート（柔道）の話をお聴きしたことで、障がい者スポーツについて知り、障がい者を取り巻く課題について考えることができた。また、アスリートたちの努力やそれを支える仲間・家族との関係など、大切なことを多く学ぶことができた。オリンピックやパラリンピックについて関心の低かった生徒が、東京大会を実際に見てみたいと考えたり、テレビで観戦して応援したりしたいという意欲を持つようになり、大きな成果と考えている。